

日本留学海外拠点連携推進事業主催 日本留学フェア（於ロシア連邦・ウラジオストク）を開催

文部科学省の委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として、11月30日（土）、ウラジオストク市内にある極東連邦大学付属科学図書館において本学の協定校である極東連邦大学の協力を得て日本留学フェアを開催しました。今回のフェアは2月に実施したハバロフスクでの日本留学フェアに続き、ロシア連邦極東地域において2回目の開催になります。

ウラジオストクは、東方経済フォーラムをはじめ、多くの国際会議の開催地であり、2018年12月には極東連邦管区の州都となっています。また、貿易都市として発展を遂げ、多くの日系企業も進出するなど日本との関係が深く、日本への留学の関心も高い地域です。

留学フェアでは、まず全体会が行われ、フェアの開会にあたり、本学ロシ

アモスクワオフィス所長である加藤博文アイヌ・先住民研究センター教授、極東連邦大学Danil Scherban副学長補佐、在ウラジオストク日本国総領事館豊島総一郎首席領事から挨拶がありました。次に、国際部国際連携課ハタエワ・タチアナ特定専門職員から日本への留学についての概要説明がありました。その後、在ウラジオストク日本国総領事館櫻木雄介副領事から、日本の国費留学制度の概要について説明が行われました。続いて、ロシア人学生から日本留学体験談が発表された後、現地参加機関によるプレゼンテーションが行われました。

全体会の終了後、個別相談会を実施しました。個別相談会では、現地参加機関ごとのブースを設置し、参加者からの相談に対応したほか、資料提供コーナーを設置し、ロシア・CIS（独

立国家共同体）地域の留学生向けの日本の各大学紹介パンフレット及び各大学の英語プログラム紹介リーフレットを配布しました。

今回のフェアには、極東連邦大学の学生を中心に現地の大学生のほか、高校生、保護者など約40名の参加がありました。また、日本からは、本学、京都大学、東京大学、新潟大学、立命館アジア太平洋大学の5大学と、MANABI外語学院の参加がありました。

本学では、引き続き、ロシアの教育機関、行政、支援機関や企業等と連携し、日本とロシア・CIS地域の学術・学生交流を促進する活動を実施していく予定です。

（国際部国際連携課）



豊島総一郎首席領事の挨拶



個人相談会の様子



参加機関のブース